

Frente

フレンテ

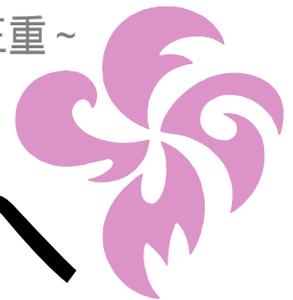
フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

vol.36
2009.1

Report

日本まんなか共和国 男女共同参画フォーラム～2008三重～

つながる ひろがる 新たなステージへ



Report

男女共同参画フォーラム～みえの男女^{ひと}2008～

どうなりましたか？

男女共同参画の視点で進める まちづくり



Topic

日本まんなか共和国 男女共同参画フォーラム～2008三重～

国の取組は？

新たなステージに向けた 男女共同参画の推進

内閣府男女共同参画局長 板東久美子さん記念講演から

男女共同参画フォーラム～みえの男女^{ひと}2008～

三重県の取組は？

県内の男女共同参画の 推進状況について

三重県生活・文化部 男女共同参画・NPO室から

男女共同参画フォーラム～みえの男女^{ひと}2008～

これからのまちづくりに向けて

はじめる すすめる 未来へつなぐ

シンポジウムでの様々な提言

2008
男女がいっききと働いている企業
受賞企業紹介！



企業に広がる男女共同参画

パール^{ひと}の輝きで、理系女性が三重を元気に
鈴鹿工業高等専門学校 紹介

三重大学の取組「女性研究者支援モデル育成事業」

日本まんなか共和国 男女共同参画フォーラム ～ 2008三重～

つながる ひろがる 新たなステージへ



日本まんなか共和国男女共同参画事業は、滋賀県、福井県、岐阜県、三重県の4県知事サミットでの提案を受け、各県の男女共同参画推進グループや団体が集い、共に語り、交流を深めるとともに、男女共同参画社会の実現に向けて4県の交流を図ることを目的として開催しています。

2001年から始まった日本まんなか共和国男女共同参画事業。滋賀、福井、岐阜、三重4県の持ち回りで開催し、今年は2巡目の最終年を三重県で迎えました。これからの社会のあり方についてヒントを得ることができた8年間でした。

今年は県民からの公募による11名の実行委員が中心となって企画し、ボランティアや学生サポーターと共に運営を行いました。フォーラム当日は各県から約480名の方に参加いただきました。各分科会では各県での取組状況報告を行い、参加者同士の語り合う姿が多くみられました。記念講演や分科会を通じ、新たなステージに向けて、今後の方向性を見いだすことができました。

今年のフォーラムで発信されたさまざまなメッセージをピックアップしてご紹介します。



新たなステージへ 向けて

これまでの振り返りと
今後に向けて



オープニングではこれまでの日本まんなか共和国男女共同参画事業を映像で振り返り、その後、内閣府男女共同参画局長板東久美子さんから国の取組についてお話をいただきました。分科会では、「環境」「観光」「女性のチャレンジ支援」「ワーク・ライフ・バランス」とこれまでの日本まんなか共和国男女共同参画事業の総括と今後に向けた「特別分科会」の5分科会を行いました。

交流

参加者同士の今後の
つながりのために



日本まんなか共和国4県から参加者が集まる絶好の機会として、多くの方々が交流できるよう参加者から様々な取組を発表できる時間「アピールタイム」の企画や「交流せんだら答えがでせやんクイズ」などを実施。また、フレンテみえ登録団体の男性グループ「ひろみ会」によるコーヒーサービスで交流を盛り上げました。

エコの取組

広がれ！エコの実践



環境(エコ)に配慮したフォーラムにしようという実行委員会のアイデアから「マイカップ、マイ箸、マイバッグ」の持参を参加者へ呼びかけるという初の試みを行いました。当日はエコへの取組に対し、多くの方に賛同、協力をいただき、特に配付資料用手持ちビニール袋を配らないことで二酸化炭素削減につとめました。

三重大学の環境への取組について展示していただきました。

学生サポーターの 活躍

あらゆる世代の
参画を！



2日間を通して会場では学生サポーターによる取材が行われました。学生自身の手で速報を作っていただき、翌日の「男女共同参画フォーラム～みえの男女2008～」で配布しました。

ひろがるネットワーク

これまでの8年間の活動の中で広がったものの展示や発表なども行われ、8年間の成果を確認できました。

これからの日本まんなか共和国は... 2009年以降はこれまでの8年間の成果と課題を検証した上で次へのステップとして、課題解決に向けた交流・研究会を4県により行っていきます。

男女共同参画フォーラム ~ みえの男女2008 ~

男女共同参画の視点で進めるまちづくり

「男女共同参画」社会とは、一人ひとりが性別にかかわらず自立した個人として自分の個性や能力を十分に発揮することのできる社会のことです。このフォーラムは皆がいきいきと暮らせる男女共同参画社会づくりのために県内各地の人々が一堂に会し、さまざまなテーマで考え交流する場です。

「日本まんなか共和国男女共同参画フォーラム～2008三重～」に続き、「男女共同参画フォーラム～みえの男女2008～」を開催しました。今年は「男女共同参画の視点で進めるまちづくり」をテーマにして3年目。前年度までの流れを引き継ぎ、地域に根ざした市町の取組に焦点を当て、このテーマの集大成として開催しました。あらゆる世代を対象にしたさまざまなプログラムが繰り広げられました。県内各地からお集まりいただき、男性の参加が40%を超える、延べ600名以上のおみなさまと男女共同参画の視点で進めるこれからのまちづくりについて考えました。



今年のフォーラムで発信されたさまざまなメッセージをピックアップしてご紹介します。

学生からの メッセージ

あらゆる世代の参画
未来を担う若者から
の発信



オープニングでは三重大学教育学部の男女2人が司会に挑戦！はつらつとした雰囲気でもホールイベントの幕を開けました。そして、三重県立津高等学校3年生の男女2人には、高校生の立場で男女共同参画社会へのメッセージを発表していただきました。自分たちの世代が仲間を作り男女共同参画の社会づくりに参加することで周りに勇気を与えられたら」と自分たちの言葉で力強く話しました。参加者の中には感動して涙する人も。

亀山市副市長からの メッセージ

仕事も人も“コラボ
レーション”がキー
ポイント



亀山市男女共同参画推進会議会長である亀山市副市長 小坂勝宏さんから、現在の亀山市が市民と行政の協働の体制を作るまでの経緯や今年制定された条例に込められた思いをお話しいただきました。「1つの課で片づく仕事はもはやなく、役所だけで進められる時代は終わり 市民 企業の力を借りないとい何事も進まない世の中になった」というお話がありました。

男女共同参画の 視点ですすめる 市町づくり

未来へつなぐために
多様なネットワーク
を



シンポジウムでは、石阪督規さん（三重大学人文学部准教授）のコーディネートで男女共同参画の視点で進めるまちづくりをテーマに、行政、企業経営者、地域の活動者の方々にそれぞれのお立場からの考えや取組についてお話しいただきました。「これからは“つながり”がキーワード。単独ではなくネットワークで、そしてトップダウンとい縦と横の軸を活用して広めていくことが重要」など様々な提言をいただきました。

男性の参画

ワーク・ライフ・
バランスの発信



フレンテみえのエントランスでは男性グループ「ちよいワルおやじの会」によるカフェがオープン。コーヒーと手作りのカップケーキを振る舞い、男性からの家事育児参画のメッセージを込めたおもてなしをしていただきました。

企業も参画！

フレンテみえでは、企業の皆様への男女共同参画の情報提供を目的に企業登録制度があります。登録企業の皆様にご協力いただき、誰もが働きやすい職場づくり 女性の登用などについて各企業での取組をパネル展として紹介しました。

記念講演

「新たなステージに向けた男女共同参画の推進」

男女共同参画社会推進への取組は新たなステージを迎えています。次のステージに向けて、わが国の男女共同参画の現状と課題、そして今後の取組の方向性を国の最新情報も交えて板東久美子さんからお話いただきました。

講師 内閣府男女共同参画局長
板東久美子さん

1977年3月東京大学法学部卒業。同年4月文部省入省。文部省生涯学習局婦人教育課長、文化庁文化部著作権課長等を経て、秋田県副知事。2001年7月文部科学省高等教育局高等教育企画課長、同大臣官房人事課長、大臣官房審議官等を歴任し、2006年7月から内閣府男女共同参画局長、現在に至る。



わが国の男女共同参画の現状と課題 - 就業をめぐる状況、根強い固定的役割分担意識 -

男女共同参画社会の実現に向けて、法律、制度も少しずつ整備されていますが、実態は日本は国際的に見て進んでおらず、まだ道半ばだと感じます。

特に政策方針決定過程への女性の参画について、日本の女性たちは非常に力があるにも関わらず、実際は十分に社会的に活かされておらずもったいない状況にあります。政策方針に新しい視点を入れていくことの重要性から、政府では「2020年までにあらゆる分野において指導的地位に占める女性の割合を30%に」を目標に取組を進めています。

女性が社会的に活躍していく上で、特に就業の場で、仕事と子育て

の両立が困難である状況はまだ変わっていません。また、女性の場合、労働の非正規化が顕著で、正規との処遇格差が大きく、短時間労働者の給与が男性の一般労働者に対しての半分以下とこれらの格差問題が大きな課題になっています。

諸外国に比べ、わが国は固定的役割分担意識が根強く、男性も含め意識の問題にアプローチが必要です。日本の場合、家事・育児への男性の参画が少ない状況です。意識だけでなく、本当はもっと家事・育児に関わりたくて長時間労働がネックで関われないという男性の働き方、働かせ方の問題が男性の家事・育児の参画を妨げており、男女共同参画の課題となっています。

ワーク・ライフ・バランス - 仕事と生活の調和の実現のために -

したがって、男性のワーク・ライフ・バランスもこれからの重要課題として考えねばなりません。また、働く人の家庭・地域参画が難しいことから、家庭や地域社会の機能の低下につながっています。そして、全体として労働人口が減っていることから、仕事に就きにくかった女性や高齢者など多様な人材の確保・活用を考えていけないといけな状況にあります。

わが国の経済は国際的にみて労働生産性が大変低く、もっと質の高い働き方を目指すという観点からも、この「仕事と生活の調和」「働き方の見直し」が必要です。2007年末には「仕事と生活

の調和についての憲章と行動指針」が策定され、「就労による経済的自立が可能な社会」「健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会」「多様な働き方や生き方が選択できる社会」を目指すという大きな3つの柱で取組を進めています。また、官民一体となり働き方を変えてみようという「カエルジャパン」というキャンペーンも始めています。「カエル」というのは「チェンジ」ですが「家にカエル」「ホップ・ステップ・ジャンプ」等いろいろな意味を込めています。

女性の活躍促進のために - 女性の参画加速プログラム -

特に科学技術、防災、地域おこし・観光、環境といった新たな分野でも男女共同参画の拡大を図る取組を進めています。2008年4月には男女共同参画推進本部において「女性の参画加速プログラム」を作り、様々な分野における女性の参画を加速するための基盤整備や、なかなか進まない分野としての医師・研究者・公務員への参画を拡大する働きかけを進めています。

プログラム」を作り、様々な分野における女性の参画を加速するための基盤整備や、なかなか進まない分野としての医師・研究者・公務員への参画を拡大する働きかけを進めています。

男女共同参画の視点 - 多様性を活かすしなやかな組織作りが豊かな人生を実現していく -

男女共同参画基本計画やプランなど市町村レベルでの策定が進んでいますが、女性の管理職への登用といった点でも市町村で大きな差があるという状況です。基本計画は総合的に計画的に男女共同参画を推進していく上の非常に大きなベースになるものです。皆様の市町村の状況を改めて振り返っていただき、推進の枠組みの整備促進をしていただければと思います。

昨今、いろいろな政策分野に男女別の状況分析を入れることで、新たな課題や取り組むべき方向が明らかになるというのを痛感しています。いろいろな分野に男女共同参画の視点を横串として通していきたいと思っております。そのためには、様々な

活動主体との協働、ネットワークの形成が重要です。

今後、人口減少などいろいろな環境変化の中で、多様な人材の活用や活躍が社会全体にとっても生命線ではないかと思えます。多様性という中で、男女共同参画はまさに基本的な第1歩であり、それを活かすためには、様々な立場の方のニーズや事情、規模に即した仕事と生活の調和を考えていくというのが欠かせないことだと思えます。

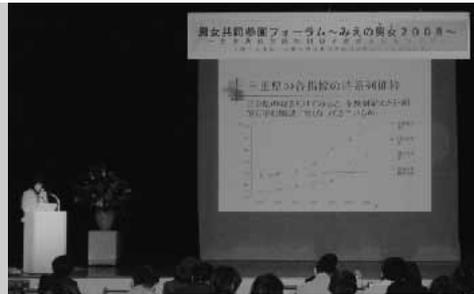
男女共同参画の視点を入れていくことは多様性を活かすしなやかな組織や社会を作ることになり、個人にとっても豊かな充実した人生を実現していく重要な視点だと思っています。



全体会

県内の男女共同参画の推進状況について

三重県生活・文化部 男女共同参画・NPO室
三重県の男女共同参画の現状や、目指す社会について全国的な動向と照らし合わせながら解説され、今後の課題解決に向けた取組の必要性について話されました。



男女共同参画基本計画では、あらゆる分野の政策・方針の実施にあたり男女共同参画の視点を反映させる取組を進めています。県内市町の推進状況の傾向として条例制定等は全国と比較して高いが、計画策定率や審議会等女性登用率は低い傾向にあります。理念の普及はある程度進んできたが、具体的な計画策定と実践は遅れている状況なのです。市町の審議会委員等への女性登用率の向上のためには具体的な目標を設定すること、市町における条例制定、基本計画等の策定などがプラスの影響を与えることがわかります。また、女性の登用率が上がらない原因に女

性の人材不足などがあり、特に専門分野の人材確保のためにも女性の社会参画を推進する必要があります。子育てなどでキャリアが中断しない、または再チャレンジできる環境整備、子育てを社会全体で応援するための整備、父親の育児参画、保育施設・育児休業制度の充実、また男性の長時間労働の是正、働き方の見直しも必要、つまりワーク・ライフ・バランスの推進と家庭や地域、職場の意識改革が必要です。男女共同参画は社会づくり、まちづくり。県民、市町、事業者と協働して男女共同参画社会の実現を目指していきたいと思っています。



シンポジウム

男女共同参画の視点ですすめる市町づくり
～はじめる すすめる 未来へつなぐ～

シンポジウムは、先に行われたリーディング講演 亀山市小坂勝宏副市長の先進的な取組のお話を受け、行政、民間企業、そして地域活動される県民のお立場から、男女共同参画の取組をご紹介いただき、それぞれの視点からまちづくりの提言をいただきました。

塚崎さん：国の調査で約7割の方が地域の活動に参加したいと回答。でも実態はこの通りではありません。また、そうした活動において方針を決めたりする立場に女性が少ないというのが現状です。多様な視点や新しい発想を生かしていくためにも、意思決定の場に女性が参画することは大変重要です。国では女性の参画加速プログラムをつくり3つの基本的な方向「意識の改革」「女性の能力開発に対する支援」「ワーク・ライフ・バランスの実現」を打ち出しました。ボランティア活動をしている勤労者は時間がなく参加できないことを問題点として一番に挙げており、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた目標を設定し、家庭や地域で過ごす時間を増やし豊かで健康な生活ができるような取組が必要

となります。

女性が中心になり地域を活性化する事例は全国で増加。その大きな特色はネットワーク力です。いろいろな組織や個人をつなぎ、さまざまな主体の持ち味や強みを生かせる点が大きなメリットです。こうした男女共同参画の視点で進めるまちづくりの活動が増えれば国全体としても豊かな多様性のある国になっていくと思っています。

その中で行政が果たす役割は身近なニーズを把握し、それに応じた情報提供をして様々な主体や個人や組織をつなぎあわせていくことです。地域の中にはいろいろな可能性があると感じます。それが広がり展開していきようサポートしていきたいと思っています。

キーワードは
ネットワーク力。



塚崎裕子さん
内閣府男女共同参画局
推進課長



伊藤 準一さん
株式会社第三銀行株式会社
取締役頭取

トップダウンを効果的に。
地域の社会的責任を果たしたい。

伊藤さん：社員の半分を占める女性を活用できるかは業績に差がでる重要なポイントです。平成16年当時の新しい中期経営計画に女性の幅広い活躍の場を整備することを盛り込みました。まず年齢や役職に関係なく選んだ女性社員が自ら話し合い、そこから課題となる3つの壁が出てきました。1つ目は「勤務時間」。定時に終われず家事や育児が問題に。2つ目は「営業業務」での壁。顧客訪問における防犯上の問題。女性に融資の話を任せない会社経営者もいます。3つ目は「転勤」。県内外の9店舗への転宅や単身赴任が伴うこともあります。

こういった問題解決のためにはトップダウンしかない判断し、平成18年、頭取直轄のポジティブアクション推進プロジェクトチームを女性だけで立ち上げました。さらに女性の活性化検討会を設置、管理職にも女性の活用仕方などを理解してもらう啓蒙活動を行うこととし

した。放っておいては男性中心の保守的な部分はなかなか変わらない、意識改革をしなければと思いました。

チームでは「女性の採用の拡大」「女性の職域の拡大」「積極的な女性の管理職登用」「女性の問題を含む職場環境・風土の改善」などの課題に対し着実に進めているところです。しかし前述の3つの壁の課題は残っています。それからワーク・ライフ・バランスは男女問わず非常に重要な問題です。

社会的にも女性が自分自身の能力を発揮したいと思う人の割合は低いように感じます。非常に意欲のある方もいますが、任せようとなると家庭の事情がネックに。これは企業だけでは解決できない問題です。私どもは地域の金融機関、社会的責任を重く感じています。企業としての社会的責任として、女性としての社会的地位の向上を進めていく施策を実施していきたいと思っています。



飯田 淳子さん
常盤男女共同参画を
すすめる会代表

住む地域から変えていく。
寸劇でつながるネットワーク。

飯田さん：四日市市には、市が都市宣言や条例に取りかかり始めた頃に委員として参加していました。でも「立派な法や条例が国や三重県、四日市市でできたとしても、住んでいる所が変わらなかつたら結局「絵に描いた餅」ではないか」と自分なりに考え、会を立ち上げました。会の活動として学習会などを実施しましたが、もっと地域の方にわかっていたるように寸劇をしてみようと考えました。県の行ったシナリオコンクール入選作から作品を選び、地域にふさわしい内容にアレンジしました。寸劇の内容は、結婚後の若い夫婦の物語、遺産相続、「いつまで男社会」という団塊の世代・退職後の夫婦の物語の4作品。寸劇を通して「男女共同参画の社会づくり

をしていなくてはならないんだ」と気付いてもらうために、1年間、毎月のように練習しました。そしてこの寸劇をDVDでも作成したところ、貸して欲しいなどの声をいただき、つながりができていきました。また、マスコミに取りあげられ、県内外の自治体からも相談されるようになりました。

昨日のまんなかフォーラムでは、男女共同参画の視点で取り組む行政でなくてはならないということが話されました。市民の思いだけでは進まないところがあるので、行政にはすべての部署で男女共同参画の視点を持って私たちの活動を評価し、協働の姿勢で活動支援をしていただきたいと思います。

石原さん：もともと会社人間ですが、妻を亡くしたことで必要に迫られ、地域の講座へ参加など勉強しながら充実の道を探しました。

所属する亀山市の男女共同参画推進講座企画会議「いどばたクラブ」は、亀山市の男女共同参画を推進するため、行政とともに企画運営する市民グループ。最近特に力を入れているのは平成17年、19年に実施した企業意識調査です。2回の調査結果を比べると、取組が進んでいることがわかりました。また、1年度の企業調査結果の報告のため全企業を訪問しました。企業のトップとともに話し合い、意思疎通を図るということです。企業の姿勢は、訪問したときの対応で男女共同参画を

進めているのが無関心かすぐわかります。門前払いのところもあれば応接間で接遇を受けることも。

「市民意識調査のアンケート」「行政への市民要望」企業からの市への要望」を行政と話し合い分析してきました。その結果、「保育介護の施設やサービスの充実」が一番多いことがわかりました。これらの結果を踏まえて今後市とともに協働でパネル化するなど市民、企業への啓発素材として活用していきたいと考えています。

これからは男女共同参画の視点を持って自分で行うことは前向きに、また自分1人だけではなくグループで助け合って取り組んでいくということを心がけていきたいと考えています。

取組を進めるのは
グループで助け合って。



石原 正さん
亀山市男女共同参画
推進講座企画会議
「いどばたクラブ」
メンバー



石原 督規さん
三重大学人文学部
准教授

未来につないでいくために。

石原さん：皆さんのお話を聞いていて実感させられたのは、男女共同参画の視点を、これからのまちづくりにつなげていくためには、何よりも「仲間たちと一緒に進めていくこと」が求められるということです。一人ではできなくても、誰かと手を携えることによって、見えない「壁」や「天井」を打ち破ることも可能となります。また、「トップの決断」も重要です。たとえば、育休を取りたいと思っても取りづらい、あるいは取れない職場環境の下では、トップが確固たる姿勢を示すことによって育休の取得につながっていく。このようなトップダウンという手法が、これからのまちづくり、人づくりのさまざまな局面で必要になってくるということです。こうした「ヨコ」と「タテ」のつながりをどのように構築していくかが今後の課題といえるのかもしれない。

男女共同参画というのはその発想や理念、政策に「唯一の」解答や定義があるというものではありません。百人いれば百通りの考え方があっても不思議ではないわけです。むしろそれぞれの立場や環境で何が求められているのかを見つけ出し、その課題を地道に改善、克服していくという作業の積み重ねがこれからの男女共同参画の取組に求められていると思います。まちづくりは一人の力では進めることはできません。まずはいろいろな人の意見を聞き、話し合い、協力し合うことが大切です。今日のシンポジウムでは、パネリストの皆さんから貴重なお話をたくさんいただきました。こうしたお話をそれぞれの家庭、職場、地域に持ち帰って、あらためて皆で男女共同参画のまちづくりを考え、実践するためのきっかけにしていだければと思います。



フォーラムでは、市町村合併後の地域の現状を知ることからスタートし、さまざまな地域での取組を情報共有しながら県内各地へこの取組が波及していくことを目指して考えてきました。

平成2年度は「男女共同参画社会基本法」の制定から10年、「三重の女性史」発刊予定、三重県総合文化センター設立15周年という節目を迎えます。次回フォーラムでは「労働」に焦点をあて歴史的な変遷をたどり、現在、そして未来の課題について考えます。



2009(平成21)年
三重県総合文化センターは15周年を迎えます。

来年度もぜひご参加ください!

男女共同参画フォーラム
～みえの男女2009～

平成2年
11/13(金)
11/14(土)



会場：フレンテみえ多目的ホールほか



パールの輝きで、 理系女性が三重を 元気に

三重大学では現在、文部科学省の「女性研究者支援モデル育成事業」として「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」というプロジェクトを地域で連携を取りながら進めています。フレンテみえもこの事業を支援しており、2008年10月「男女共同参画とイノベーション」と題して三重大学と共催で講演会を行いました。また、フレンテみえで開催された11月89日のフォーラムでも女性研究者に焦点をあてた分科会やワークショップを三重大学の協力のもと開催しました。2009年2月には三重大学と四日市大学、鈴鹿医療科学大学、野菜茶業研究所、養殖研究所、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、フレンテみえの8つの連携機関の女性研究者を紹介した冊子が発刊されます。

ここでは連携機関の一つである鈴鹿工業高等専門学校の取組についてご紹介します！

あなた 続け、理系の卵たち！ 描け、貴女の未来予想図！

～平成20年度文部科学省『女子中高生の理系進路選択支援事業』～
フレンテみえで取材した内容を紹介します



夏に公開講座が行われ、県内外の女子中学生、保護者の方が参加されました。光ファイバー工作実習中。ファイバースコープの原理を知り、実際に作って文字が見られると女子中学生たちに満足気な笑顔が。

鈴鹿工業高等専門学校では、学生に対して理系に興味を持ったきっかけを尋ねるアンケート調査を行いました。女子生徒が理系に興味を持ち始める時期（小学校高学年～中学校）のイベント参加は効果が大きいという結果を受けて女子中学生を対象にした講演会、公開講座・実習、職場訪問を企画、広く様々な理系分野への進学支援や、将来の研究者育成を目的に実施されています。これらの企画を通し、実際に理系女性技術者・研究者と触れあう機会を得ることで、理系進路選択後の未来予想図を自らで描く力を身につけてもらうことを目指しています。



鈴鹿工業高等専門学校

〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町
TEL: 059-367-1717 FAX: 059-387-0338
Email: smu@jin.suzuka-ctac.jp
URL: http://www.suzuka-ctac.jp/

今後の情報誌 **Frente** でも連携機関を紹介していきます！

フレンテみえの事業を報告します

Review 1

9/13,10/11,
11/15,29

エンパワーメント・スクール2008
女性のライフサイクル研究コース～
「わたしの人生」を取り戻す！

仕事や子育て、介護に追われてきた中高年女性たちが後半人生を主体的に生きるヒントを学びました。講座タイトルに惹かれて全県から集まったのは30～70代。「このような場には初めて参加した」という方も、様々なワークや語り合いを通して、家族や職場の要求に応えるだけの生活では満たされない思いを共有し、お互いをねぎらい合いながらそれぞれの生き方を探っていきました。参加者からは「多くの人の話を聞いて、皆同じ思いをしてきたのだと希望が見えてきた」「自分の中にもちゃんと力があると思いださしてもらった」との感想が寄せられました。講座終了後には参加者有志によるグループ「未来」が誕生し、語り合いを続けています。



Review 2

7/12,8/30,9/27,
10/18,11/9

まちづくり達人塾
～まちを元気にするプロジェクト～

住民と行政の担当者でひとつのチームを作り、協働で男女共同参画のまちづくりのためのプランを作成しました。四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市が参加。お父さんに子どもとふれあう時間を提供する「大好きパパ応援団」、地区に向いでお菓子作りなど楽しい活動でメッセージを発信する「うまい！男女共同参画出前講座」、延長保育が無い現状を知ってもらおうと「子育ての現状を知るパネル作成」、「子育てしやすいまちはみんなが住みやすいまち」としておむつ替えシートなどを明記した「トイレマップ作成」とまちの現状を分析した上での具体的なプランが出されました。参加者からは「協働で取り組むことの重要性がわかった」との声も。各市、プランの実施に向けて現在も取組を続けています。



「三重の女性史」 完成予告！

これまで5カ年かけて、県民の皆さまと協働で三重の女性史作成に取り組んできました。歴史の中に埋もれてきた女性に焦点を当て、教育、労働、政治、農業・漁業、文化、生活など分野別に調査を行い、「通史」「聞き書き」「年表」の3部構成で作成しています。2009(平成21)年秋に刊行予定です。



2008 男女がいきいきと働いている企業 受賞企業 紹介!

三重県では、男性も女性もそれぞれが持てる力を十分に発揮できる「働きがい」のある職場環境づくりを目的に、男女の雇用機会均等法や仕事と家庭の両立支援、次世代育成支援などに積極的に取り組む企業を表彰しています。この賞に毎年挑戦する企業も出てきているなか、2008年の受賞企業が決定しました。受賞企業から今後の取組についてコメントをいただきましたのでご紹介します。

ベストプラクティス賞

万協製薬株式会社

【代表者】代表取締役社長 松浦信男
 【所在地】多気郡多気町五桂 1169-142
 【業種】医薬品製造業
 【従業員数】83人

弊社では今年度「男女がいきいきと働ける会社しよう」をスローガンとしております。男女とも「家庭」を大切にできる働き方ができるように、また、やりがいを持って働き続けられるよう制度の充実を図り、取組を行ってきました。弊社ならではの活動としては「育児休業の取得を3年までに期間延長」「残業時間短縮と有給休暇の取得率アップの啓蒙活動」「ハラスメント委員会の設置」などがあります。今後は男性のみで構成されている部門の環境整備を進め、女性の職域拡大を図ることや、また女性には定着している「育児休業制度」を男性も取得できるよう推進したいと考えています。また、今後はハラスメント委員会の活動の充実を目指して取組をしていきたいと考えています。



選考委員会奨励賞

エスワイトラベル株式会社

【代表者】代表取締役社長 鎌倉肇雄
 【所在地】四日市市西末広町 1-14
 【業種】旅行業
 【従業員数】24人

従業員個々の潜在能力の発掘を通じて、遣り甲斐・働き甲斐を感じられる組織づくり、並びに能力を正当に評価できる仕組みづくりに取り組んでいます。今後は女性の管理職登用にむけて、評価制度・人事制度の見直しを行うことで更なる従業員満足につなげたい。

選考委員会奨励賞

株式会社三交タクシー

【代表者】代表取締役社長 宮田準
 【所在地】津市乙部 1-3
 【業種】旅客自動車運送事業
 【従業員数】約550人

当社は、創業以来、「安心、安全、快適」をモットーとして地域社会に根ざした旅客運送事業を営んでまいりました。ワーク・ライフ・バランスが叫ばれる昨今、社内においても男女共に一緒に働く仲間として「安心、安全、快適」な職場環境づくりが今後も大切と考えております。

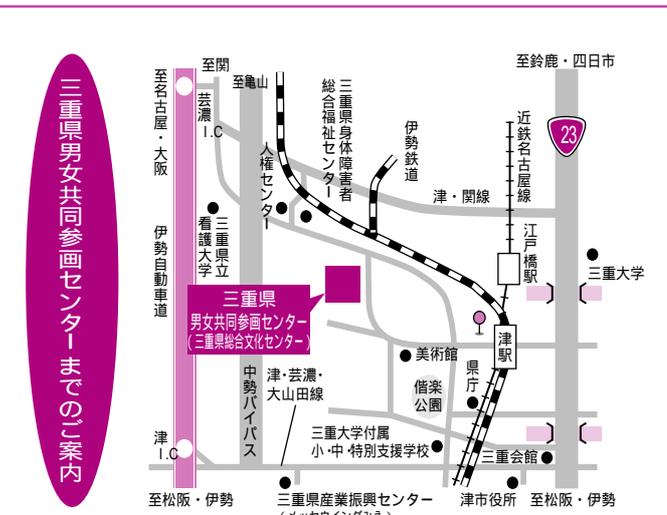
選考委員会奨励賞

日本土木工業株式会社

【代表者】代表取締役 晴地一弘
 【所在地】南牟婁郡御浜町大字引作 141-52
 【業種】総合建設業
 【従業員数】37人

当社は優れた人材の雇用と地域への貢献を目指し「管理職」や「現場監督」への女性の起用を会社と社員が丸となって支援してきました。今後も性別や年齢に関わらず正当に評価する姿勢をもち個々の家庭を思いやりながら気持ちよく働ける職場作りを目指してまいります。

三重県生活・文化部 勤労・雇用支援室発行の「みえの労働」(1月号)では、受賞企業のインタビュー等を掲載されています。詳細はお問い合わせください。
 【三重県生活・文化部 勤労・雇用支援室】TEL 059-224-2454



休館日 毎週月曜日
 年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 バス/津駅西口1番のりばから約5分
 徒歩/津駅西口から約25分
 自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約13分、津インターから約10分
 駐車場は140台(無料)できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 123番地
 TEL: 059-233-1130 FAX: 059-233-1135
 URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>
 E-mail: frente@center-mie.or.jp

フレンテみえ情報コーナー リニューアル!



県内・外の男女共同参画ニュースをお届けするフレンテみえ情報コーナーがリニューアルしました!「交流スペース」が「団体交流&資料コーナー」として生まれ変わりました。団体ミーティング、資料の閲覧、ビデオ視聴等にご利用いただけます。

平成 21(2009)年度の情報誌 **Frente** も様々な分野の男女共同参画の情報をお届けしていきます。4、7、10、1月の年4回発行の予定です。登録されている個人・団体・企業の皆様にも定期的にお届けしています。詳細については「フレンテみえ」までお問い合わせください。皆様からのご意見・ご感想もお待ちしております! 今後も情報誌 **Frente** をどうぞよろしくお願ひします。